

～ 支援員の統一について ～

あんschool R6.9.25



右のQRコードから
左のページの表示を
お願いします。



サンクスシェア
代表社員 田中 聡



「行動」を意識する





どのようなことを
思い浮かべますか？

解釈ですか？

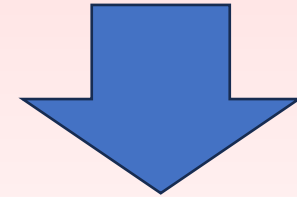
事実ですか？

具体的な行動ですか？

- ① 田中は 自己肯定感が低い
- ② 高倉は よく忘れ物をする
- ③ 高橋は 友だちを叩いた
- ④ 種崎は 掃除をさぼる
- ⑤ 船津は だらしない
- ⑥ 樫本は パニックを起こす
- ⑦ 小川は 不登校である
- ⑧ 倉光は 落ち着きがない

具体的な行動ですか？

主観的な表現ですか？



具体的な行動

1 観察可能である

2 再現可能である

「ほめる」と「しかる」



「ほめる」と「しかる」の実質的効果

先ほどの実験のパフォーマンス・データ

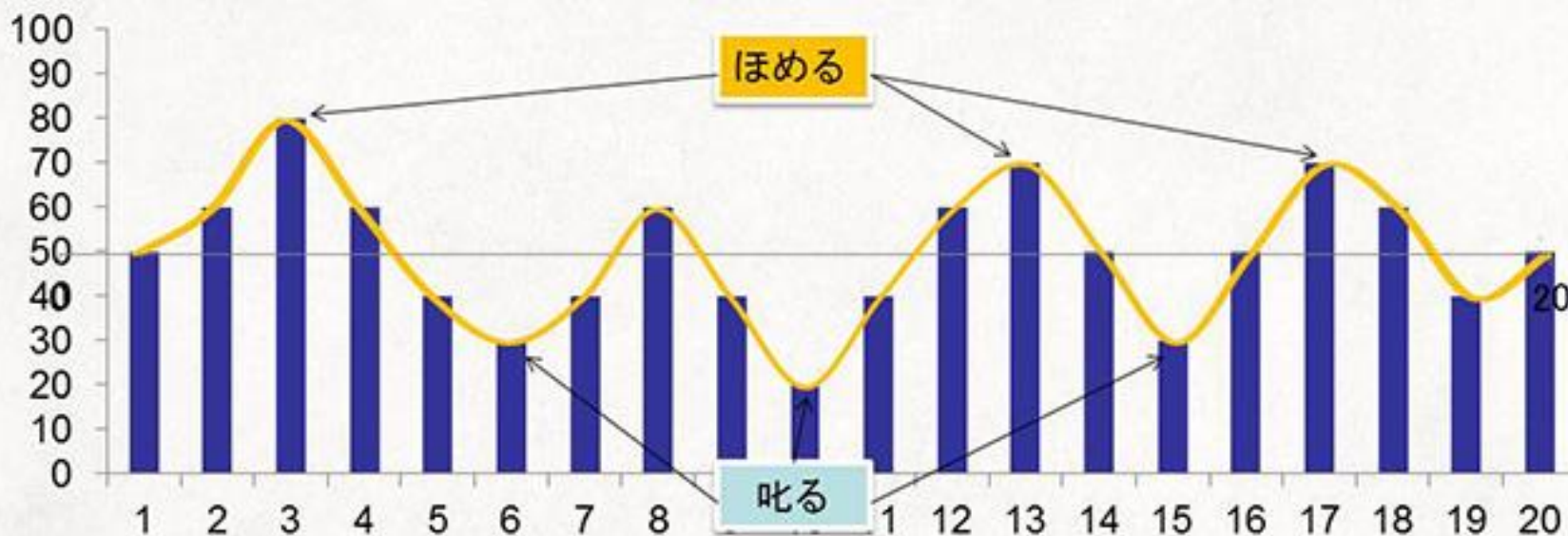


図1 好・不調の周期変動

- 回帰現象によって、ほめられた後では成績が下がりやすく、叱られた後では成績が上がりやすいことが判ります。

長期的には、成績はこのように変化すると考えられます。

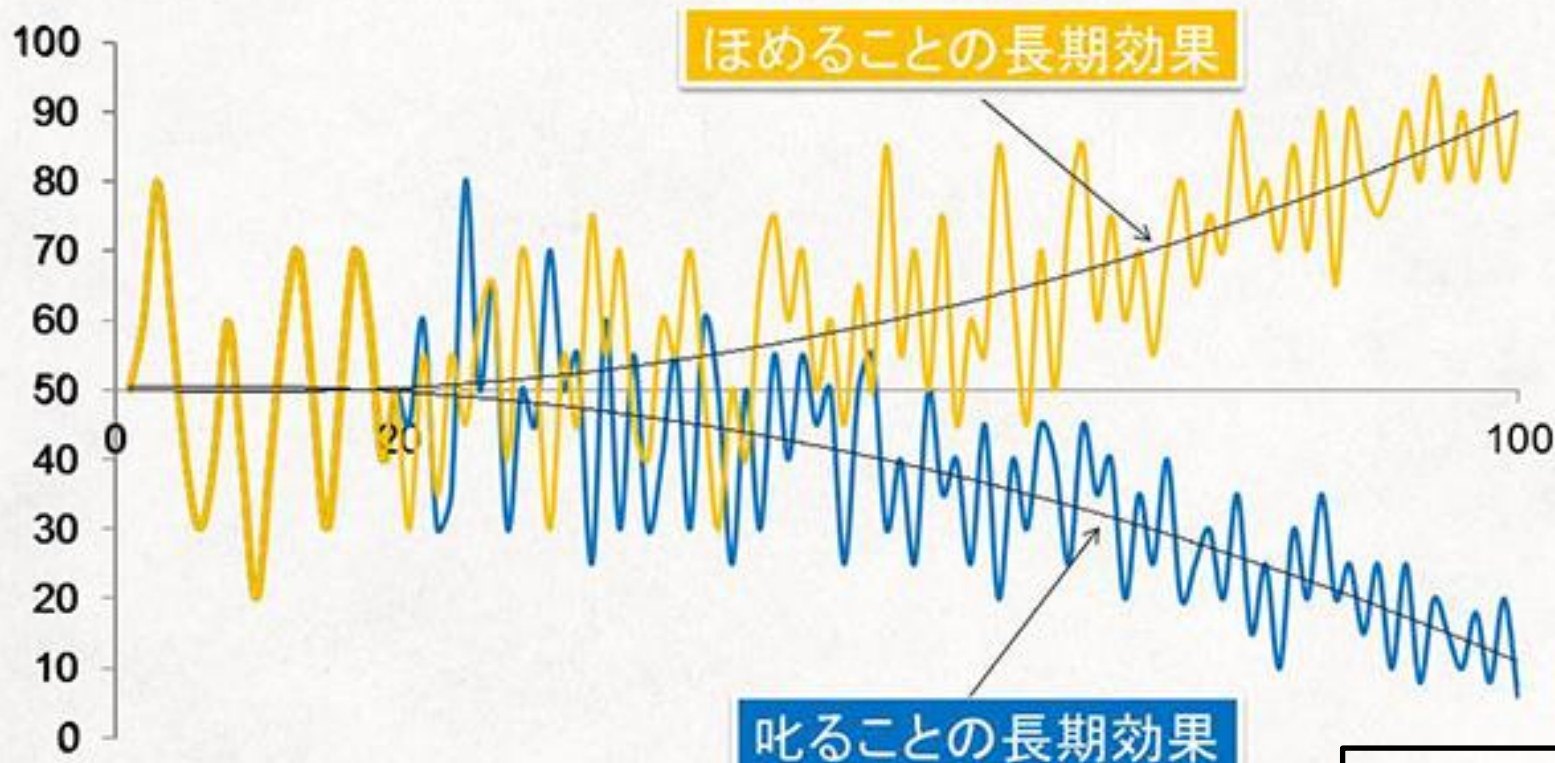


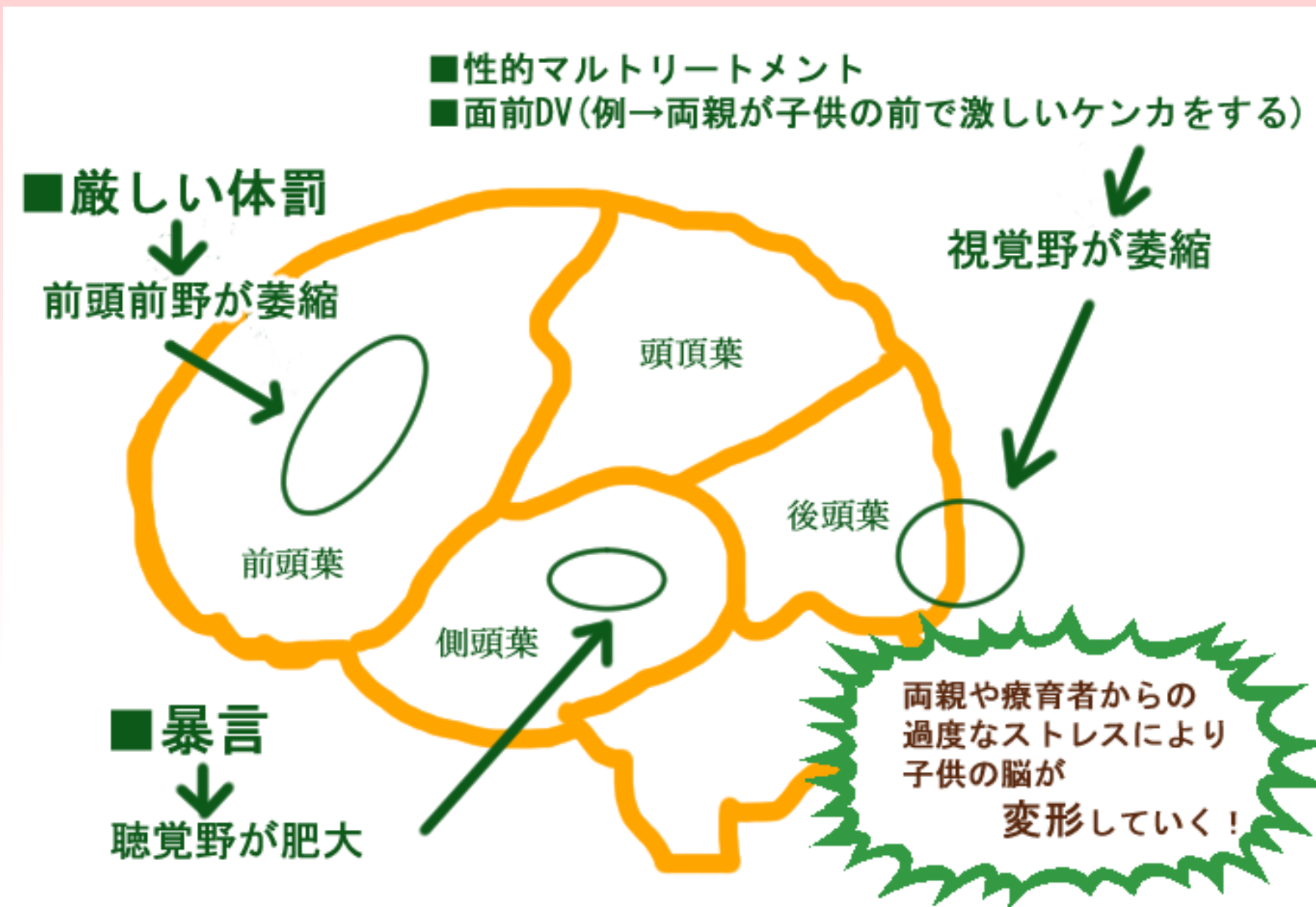
図2 ほめることと叱ることの長期効果

ほめることと営業成績

<https://www.recog.works/ja/about/>

「ほめる」と「しかる」の実質的効果

マルトリートメント = 不適切な養育



子どものほめ方レベル

【かかわってほめる】

- Lv.1 子どもから教えてくれる
- Lv.2 じっと観察してみつける
- Lv.3 しかけてほめる

ほめる観点：

<https://www.recog.works/ja/mecanism/>

ほめ方の考え方

(楽々かあさんHP)

	障害特性	リフレーミング (強みの表現に変換)
1	ことばを聞いて理解することが苦手	目で見たと情報は理解しやすい
2	表情や身振りを、誤って理解してしまう	明瞭に (はっきりと) 区別された指示を好む
3	人や場面によって態度を変えられない	ルールをきっちり守ろうとする。物怖じしない
4	他の人の興味あることに関心が薄い	状況に左右されず、自分の好きなことに取り組むことができる
5	全体をとらえて関係性をつかむことが苦手	細部に、強く意識を向けることができる
6	別のやり方を探したり臨機応変な対応が苦手	状況に左右されず、ねばり強く取り組むことができる
7	集団で一斉に行動することが苦手	マイペースに課題を完了することができる
8	「いつ終わる」かを理解するのが苦手	決められたことをやり続けようとする
9	抽象的、あいまいなことの理解が苦手	具体的で、はっきりしたことを好む
10	経験していないことを想像することが苦手	経験したことは、しっかりと覚える
11	特定の物事に強く固執	興味があること (趣味・仕事) に、積極的に取り組める
12	規則することが苦手	繰り返し体験することで記憶する
13	発達 (認知能力) がアンバランス	興味・関心。好きなことは抜群にできる
14	特定の行動を何度も繰り返してしまう	決まったパターンを几帳面に行うことができる
15	期待されていることに注意が向かない	興味・関心があるものに、強く注意・集中を向けることができる
16	特定の感覚が過敏、または鈍い	些細な違いや変化に気が付くことができる、または非常に我慢強い



	肉体的なもの	心理的なもの	言葉によるもの
肯定的 (快)	<ul style="list-style-type: none"> ・肌のふれあい ・なでる ・さする ・抱擁する ・握手する 	<ul style="list-style-type: none"> ・心のふれあい ・ほほえむ ・うなづく ・相手の言葉に耳を傾ける ・受容や共感 	<ul style="list-style-type: none"> ・ほめる ・なぐさめる ・励ます ・語りかける ・挨拶をする
否定的 (不快)	<ul style="list-style-type: none"> ・たたく ・なぐる ・ける ・つねる ・その他の暴力行為 	<ul style="list-style-type: none"> ・返事をしない ・にらみつける ・あざわらう ・無視をする ・信頼しない 	<ul style="list-style-type: none"> ・叱る ・悪口を言う ・非難する ・責める ・皮肉を言う

杉田（1985）「交流分析」日本文化科学社 90p、

白井ら（1981）「死と闘う人々に学ぶ」医学書院 38 p から一部改変して図示

←	← 目的 (なにをねらって?) ←	← 内容 (どんなことを?) ←	← 方法・留意点 (どうやってほめる?・しかる?) ←
ほ め る	本人の発達・成長のために ①「発達的特質 (知徳体)」 ②「個人的特質 (性格)」 (自信 チャレンジ心等)	・できたこと ・できるようになったこと ・その子にとって伸びたこと ・チャレンジしたこと ・いつもと違うよい行い	・具体的に (何をほめられているのかが理解できるように) ・普段からの本人の発達・成長の把握 (必要に応じて、アンケートや標準検査の活用。特に「変化」を見つけるには、 記録の充実 が重要)
	本人の快感情実感のために (喜ぶ 達成感 元気等)	・本人が喜ぶこと ・本人がうれしいこと	・相手の快感情及び快感情表現の アセスメント (保護者や関係機関からの情報収集&普段からの観察とスタッフ間での情報の共有 やはりこれも記録が重要)
	本人の承認のために (認める わかってあげる等)	・存在そのものの肯定 ・人格そのものの肯定	・本心でないと見破られる可能性がある (感情も含めた伝えるスキルトレーニングは必須)
	「伝わる」ために・・・		【手順】 ・まず、注目をさせてから ・相手の目を見て ・照れずに 【スキル】 ・ ノンバーバル の活用 (表情、身振り、周りの環境、+ 人に好感を与える身なりや立ち振る舞い) 【意識】 ・何を誉められたいのかを把握&意識をして 【工夫】 ・支援者の気持ちや考えを付け加えて (他児者の同意見が加わると効果倍増! = 心理劇補助自我)
し か る	◎ 危険認識 の是正のために	・危険認識に関わる内容	・必要に応じて感情移入が必要 (ただし、スタンスとしては 冷静 に) ・なぜ危険なのかの理解と次からの行動修正を具体的にインプットする
	◎ 他者への迷惑 是正のために	・他者への迷惑行為に関わる内容	・何が迷惑になっているのかを相手理解できるようにしかる (時には、迷惑を受けた相手にその時の感情等を伝えさせることも必要)
	◎ 法律違反 の警告のために	・法律違反の内容	・法律違反の根拠を明確に (「こども六法」という書籍の常備)
	△ 不適切 なことの減少のために	・不適切行動の内容	・目的を決して見失わないこと! (感情的になりすぎない) ・減少の目的のために、「どうすればよいのか」を具体的に理解させる
	「伝わる」ために・・・		【手順】 ・まず、 相手の言い分 を聞くことからスタート 【意識】 ・しかっている 理由 を明確にする ・これから どうするとよいのか を明確にする (一緒に考えるもあり) ・ 短く (3秒~20秒)

冰山モデルの考え方

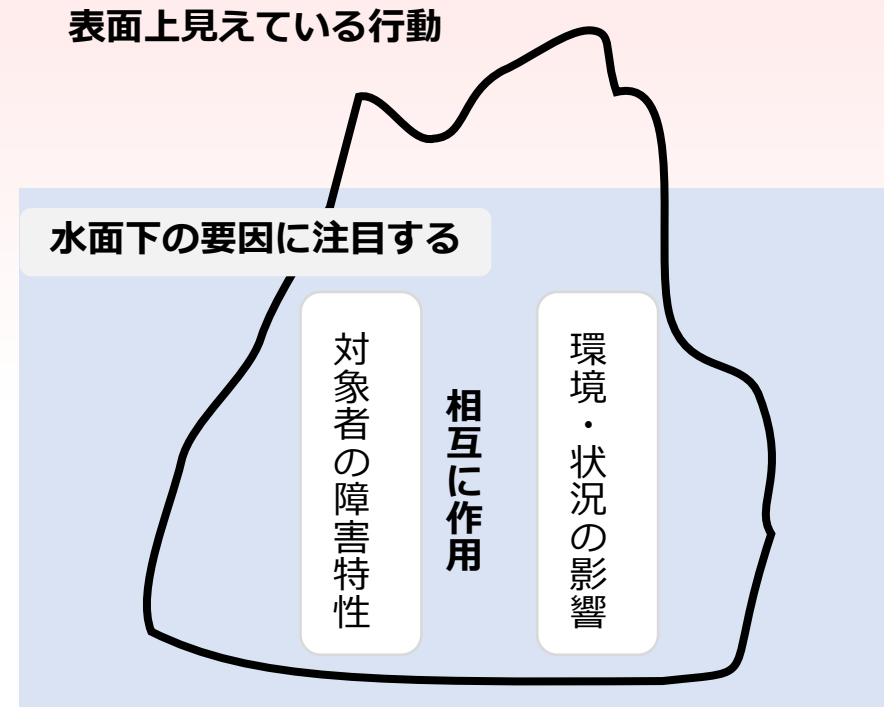


手順書の作成プロセス①

①背景の障害特性を推測する | 冰山モデル

行動の背景にある障害特性（生物学的・心理的）を推測し、リストアップします。その際、行動の生起要因のきっかけとなっている環境（本人に影響を及ぼす物、事、人）要因にも留意しましょう。

冰山モデルとは、障害がある人の課題となっている行動を氷山の一角として捉え、氷山の一角に注目するのではなく、その水面下の要因に着目して支援の方法を考えることを意味します。



表面上見えている行動

- 作業室へ案内するが、ウロウロと廊下を歩きまわる
(作業室で、開始時間まで座って待てない)
- 声かけするが、徐々に表情が強ばり跳びはねることがある
(他害のリスク有り)

水面下の要因に注目する

障害特性：

- ・ 先の見通しをうまく持てない
- ・ 言葉（音声）で伝えられた内容を理解することが苦手
- ・ 物事の「始め」と「終わり」がわかりにくい

環境要因：

- ・ 待つためのグッズや方法が準備されていない
 - ・ いつまで待つかが示されていない（本人に理解できるようになっていない）
 - ・ ウロウロと歩き回る動線上に人がいる
- ……等

手順書の作成プロセス④

④「強み」を活かした新たな環境

生じている問題・生じうるリスクのある場面で、「強み」のリストを活かした環境づくり（構造化）の計画を立てます。

構造化とは、その場の状況に最も適切な意味と見通しを明確に伝え、安心できつつかつ自立的に行動ができるよう環境（もの、事、人）を調整することです。

物理的構造化	スケジュール	ワークシステム	決まった手順や習慣	視覚的構造化
<ul style="list-style-type: none">・物理的、視覚的に分かりやすい境界を作る・活動と場所の1対1の対応・妨害刺激の除去	どんな活動があるのか、その流れがどうなっているのかを視覚的に示す方法	自立的活動をする為の情報伝える方法 ①何をするか ②どれぐらいするか ③どうなったら終わるのか ④終わったら次に何をするか	<ul style="list-style-type: none">・いつも同じ手順で課題、活動を行う・習慣化することで、普段の生活を安定したものにする・ルーチンを使って繰り返している内に学習する	“見て分かる”ようにして理解しやすくする ①視覚的提示 ②視覚的明瞭化 ③視覚的組織化

モデル演習 | 具体的に記載します

生じている問題、生じるリスクを具体的に記載

- 作業室へ案内するが、ウロウロと廊下を歩きまわる（作業室で、開始時間まで座って待てない）
- 声かけするが、徐々に表情が強ばり跳びはねることがある（他害のリスク有り）

①背景の障害特性を推測 | 冰山モデル

- ・先の見通しをうまく持てない（待つためのグッズや方法が準備されていない）
- ・言葉（音声）で伝えられた内容を理解することが苦手（言葉で指示されている）
- ・物事の「始め」と「終わり」がわかりにくい（いつまで待つかが示されていない）

②障害特性を「強み」の表現に変換

- ・見通しが持てることには安心して自立的に取り組むことができる
- ・目で見て分かることの理解は得意
- ・「始め」と「終わり」がわかるようになっていればしっかり守ることができる

③他の場面から「強み」のリスト追加

- ・休憩時間、静養室のソファで横になっていることが多い
- ・タイマーの意味は分かっている
- ・刺激が少ない場所で、一人であることを好むが、30分以上続けると興奮することがある

④「強み」を活かした新たな環境

- （静養室にて、スケジュール確認、更衣後）
- ・静養室内にて、ソファに座って休憩する
→スケジュールに休憩を追加：**スケジュール**
+ 人が気にならないよう衝立設置：**物理的構造化**
 - ・休憩の始まりと終わりはタイマーを使用
→タイマー（20分）：**視覚的構造化**

最大の悪は

「支援が正しいかどうか」 < 「支援の不統一」



- ① 「大」「抽象」を「小」「具体」に (Small/Specific)
対象範囲が大きくて、抽象的な言葉を、範囲が小さく、個別具体的な言葉に。
- ② 「命令」を「提案」に (Proposal)
一方的で、高圧的な命令を、相手が気持ちよく動ける提案や問いかけに。
- ③ 「過去」を「未来の選択肢」に (Elect)
過去の行動への叱責を、未来の行動変容を促す言葉に。
- ④ 「なぜなら」を加える (Cause)
「理由」で相手の行動を導き出す。
- ⑤ 「You」を「I」に
相手を責めるのではなく、自分の気持ちを伝える。
- ⑥ 「否定」を「肯定」に (Affirm)
ネガティブな言い回しを、ポジティブで行動しやすい言葉に。
- ⑦ 「嫌い」を「好き」に (Like)
敵視するのではなく、相手の味方、仲間、支援者となり、信頼を得る。

SPECIAL	
S	Small/Specific = 小さく / 具体的な
P	Proposal = 提案
E	Elect = (未来の) 選択をする
C	Cause = 理由
I	I = 私
A	Affirm = 肯定する
L	Like = 好き

① 「大」「抽象」を「小」「具体」に

早くしなさい

集中しなさい

静かにしなさい

お行儀よくしなさい

ちょっと待って

ちゃんと座って

しっかり持って

もっと手伝いなさい

① 「大」「抽象」を「小」「具体」に

早くしなさい

7時15分に靴を履いて玄関から出られる状態にしてくれる？

集中しなさい

まずは、スマホとパソコンを棚の上に置いてみようか

静かにしなさい

この時計の針が2を指すまでの間、口を閉じて遊べるかな？

お行儀よくしなさい

足を揃えて、両手を膝の上に置いてみようか

ちょっと待って

あの時計が2時30分になるまで待ってくれる？

ちゃんと座って

椅子のここにピッタリ、背中をつけて座ってみようか

しっかり持って

スプーン、ギュッとつかんでみて

もっと手伝いなさい

お皿を運ぶのを手伝ってもらえないかな？

② 「命令」を「提案」に

早く寝なさい

さっさと食べなさい

宿題しなさい

片づけなさい

お風呂にはいりなさい

手を洗いなさい

② 「命令」を「提案」に

早く寝なさい

9時からベッドで絵本を読もうか

さっさと食べなさい

7時30分までに食べ終わられるかな

宿題しなさい

いつ宿題をしようか？

片づけなさい

そろそろ片づけをしようか？

お風呂にはいりなさい

お風呂冷めちゃうから入ってくれる？

手を洗いなさい

手を洗おうか？

③ 「過去」を「未来の選択肢」に

同じ間違いばかりするよね

こぼしちゃだめじゃない

なんでこんな成績とったのよ

なんで遅れたの

③ 「過去」を「未来の選択肢」に

同じ間違いばかりするよね

どこが難しい？

こぼしちゃだめじゃない

コップをしっかりとぎゅっと持ってみようね

なんでこんな成績とったのよ

次のテストは何点を目指そうか？

なんで遅れたの

これから遅刻をなくすにはどうしたらいいと思う？

④ 「なぜなら」を加える

早く食べて

遅刻しないで

もっとがんばらないとだめ

④ 「なぜなら」を加える

早く食べて

早く食べてくれると助かる。8時10分のバスに乗らないと遅れておこられちゃうから

遅刻しないで

遅刻しないようにお願いしたい。昨日は待たせられた人が次の予定に間に合わなくてとても困っていたよ

もっとがんばらないとだめ

算数であと10点あげたいね。そうでないとこの成績だとC判定だよ。

⑤ 「You」を「I」に

さとるくんは、

いつも自分からしてくれない

さとるくんは、

そもそも言い訳ばかりするよね

⑤ 「You」を「I」に

さとるくんは、
いつも自分からしてくれない

さとるくんは、
そもそも言い訳ばかりするよね

私は、さとるくんが
いつも自分からしてくれないことを残念に思う

私は、さとるくんは、
言い訳をすることをとても悲しく思った

⑥ 「否定」を「肯定」に

けんかしないで

たたいちゃだめ

走っちゃダメ

⑥ 「否定」を「肯定」に

けんかしないで

ひとりずつ言い分を聞いてみようか

たたいちゃだめ

そっと撫でてみようか

走っちゃダメ

ぞうのスピードで歩いてみようか

1. 障害者権利条約と子どもの権利条約

子どもの権利条約の特徴

- **子どもを権利の主体として認識**：子どもを保護の対象としてだけでなく、権利を持つ主体として捉えています。
- **包括的な権利の保障**：生存、発達、保護、参加に関する権利を包括的に規定しています。
- **子どもの最善の利益**：子どもに関わるすべての活動において、子どもの最善の利益が第一に考慮されるべきとしています。
- **子どもの意見の尊重**：子どもが自由に自己の意見を表明する権利を認め、その意見を考慮することを求めています。

1. 障害者権利条約と子どもの権利条約

子どもの権利条約の4つの基本原則

- **生きる権利（生存・発達の権利）**：基本的な生活のための保護、医療、教育を受ける権利
- **守られる権利（保護の権利）**：虐待、搾取、有害な労働、紛争などから守られる権利
- **育つ権利（発達の権利）**：教育を受け、休んだり遊んだりする権利
- **参加する権利**：自分に関係のある事柄について自由に意見を表したり、集まったりする権利

2. 権利擁護は権利意識と意思決定からはじまる

権利は認識できてはじめて擁護できる

権利擁護はみなさん自身が「権利意識」を持つてはじめて、他者の権利を守ることができるのです。権利があっても、みなさんが認識できずに見過ごしてしまえば、利用者・利用児童の権利は侵害され続け、権利侵害の加害者にもなるのです。



2. 権利擁護は権利意識と意思決定からはじまる

「愚行権」という権利

- 他人からみるとバカげた事、愚かな事（酒・たばこ・パチンコなど）でも、第三者に危害を及ぼさない限りは、こういった行為を邪魔されない権利。
- 一般社会からみて愚かであっても、上手くいけばそのことで心地よさや、幸福感が得ることができる。
- 「愚行権」を認めながら、そのリスクもきちんと伝え、「本人にとっての最善の利益」を一緒に追及していく姿勢が大切。
- 利用者自身が、支援を受けない、サービス利用をしないことを選択する権利もある。

2. 権利擁護は権利意識と意思決定からはじまる

困った行動は本人の意思表示

- 困った人ではなく、「困っている人」であるという視点。
- 困っているのは本人であるという視点。
- どうして良いか分からないから、大声を出しているのではないかとという視点。
- わかってもらえないから、暴言が出ているのではないかとという視点。
- 理解できていないから、勝手に行動しているように見えているという視点。
- 信用できないから、周りを拒絶しているという視点。
- 解決手段がわからないから、暴力が出てしまうという視点。

2. 権利擁護は権利意識と意思決定からはじまる

適切な意思決定支援を行うために

- 適切なコミュニケーションを図る力を身につける。
- 利用者が理解できる方法で適切な状況提供を行う。
- 本人、複数の職員が参加した会議を開催し、本人の意思確認をチームで行う。
- 職員の価値判断を一方向的に押しつけない。
- 利用者の意思を確認できる力を身につける。
- 事業所全体で取り組めるようなマニュアルを作成する。
- 根拠や第三者への説明ができるように複数の職員で確認する。
- 代行決定は、最終手段であることを職員全体で共有する。